

相談支援部会のワーキンググループ

相談支援部会のワーキンググループ(以下、WG)での取り組みをご報告します。

WGは、専門部会で検討したアクションプランを基に、特定の地域課題について、到達目標を決めて取り組む先鋭部隊です。平成30年度の相談支援部会では、介護保険サービスと障害福祉サービスの利用の狭間で起きている課題について検討し、アクションプランを考えました。その後、WGでそのアクションプランに取り組んでいます。

令和元年度は「介護保険サービスと障害福祉サービスの適用関係を分かりやすく示す」、令和2年度は「ケアマネジャーと相談支援専門員の実務を比較する」ことを行いました。サービスの利用プランを作成するという両者の役割は似ていますが、両者の制度の違いによる実務等の違いを確認し、他方への理解を深め、連携につなげていくことを目的としました。比較項目を定め、大田区介護支援専門員連絡会からケアマネジャーに参加していただき、実務者同士で議論の場を設けました。

8050問題に象徴されるように、障害福祉サービスから介護保険サービスへの移行が必要になる場合には、ソフトランディングできるようにしたり、家族に要支援状態の方が複数いて、介護保険サービス担当者と障害福祉サービス担当者がともに家族を支える視点を持つ必要がある場合があります。また、両サービスを併用して使うこともあります。このWGで議論したことは、今後実務者に発信していく必要があると思っています。

コロナの話題一色だった今年度、縮小せざるを得ないこともありましたが、協議会の相談支援部会の歩みは止めずに、できる活動を続けていきます。

大田区自立支援協議会だより第20号

【編集・発行】大田区自立支援協議会

令和3年3月発行

【事務局】大田区立障がい者総合サポートセンター

【電話】03-5728-9134 [FAX]03-5728-9136

「大田区自立支援協議会」は、障がい児・者の地域での自立した生活を支援するため、障がいのある方や障がい福祉に係わる様々な分野の関係者が参加して、定期的な協議を行い、地域での課題について情報を共有し、連携を取りながら具体的な検討を行うことを目的として区が設置しています。

第1回本会を終えて

大田区自立支援協議会副会長

山根 聖子

昨年の10月27日に今年度の第1回本会が、障がい者総合サポートセンターで行われました。前年度の活動のまとめとなる第3回本会が中止になったため、約1年ぶりの開催となりました。会議の前半では、運営会議、各専門部会、ワーキンググループの報告、そして後半の時間は、3部会体制の検証とワーキンググループの方向性について意見交換を行いました。

特に討議では参加した全委員から活発な発言がありました。3部会体制になったことについては、体制変更に至った背景を踏まえた上で、課題に対応した部会の構成になったこと、おおた障がい施策推進プランの基本目標との関係性も加味されたことを会議の中で共有しました。次年度に向けては、大田区の協議会としての強みを生かした取り組みを、現行の3つの部会で継続するという前向きな意見が多数あがりました。

専門部会と連動して各々活発な活動となったワーキンググループの方向性についての話し合いでは、ワーキンググループの位置づけや担う役割をあらためて検証する必要があることが課題として挙げられました。これらの意見を参考に運営会議で検討し、今後も切れ目のない協議会運営を目指していきます。

今回、新型コロナウイルス感染症予防対策の工夫などによって、委員が顔を合わせ意見交換を行うことができました。今年度の新規委員もそれぞれの立場から発言がありました。このような状況下にあいながらも、第1回本会は、大田区の地域課題解決に向け、委員一体となり活発な議論の場になりました。

令和2年度大田区自立支援協議会 第2回本会の開催について

令和3年3月に第2回本会を予定しておりましたが、新型コロナウイルスの感染拡大による緊急事態宣言の延長に伴い、「書面会議」で開催することになりました。

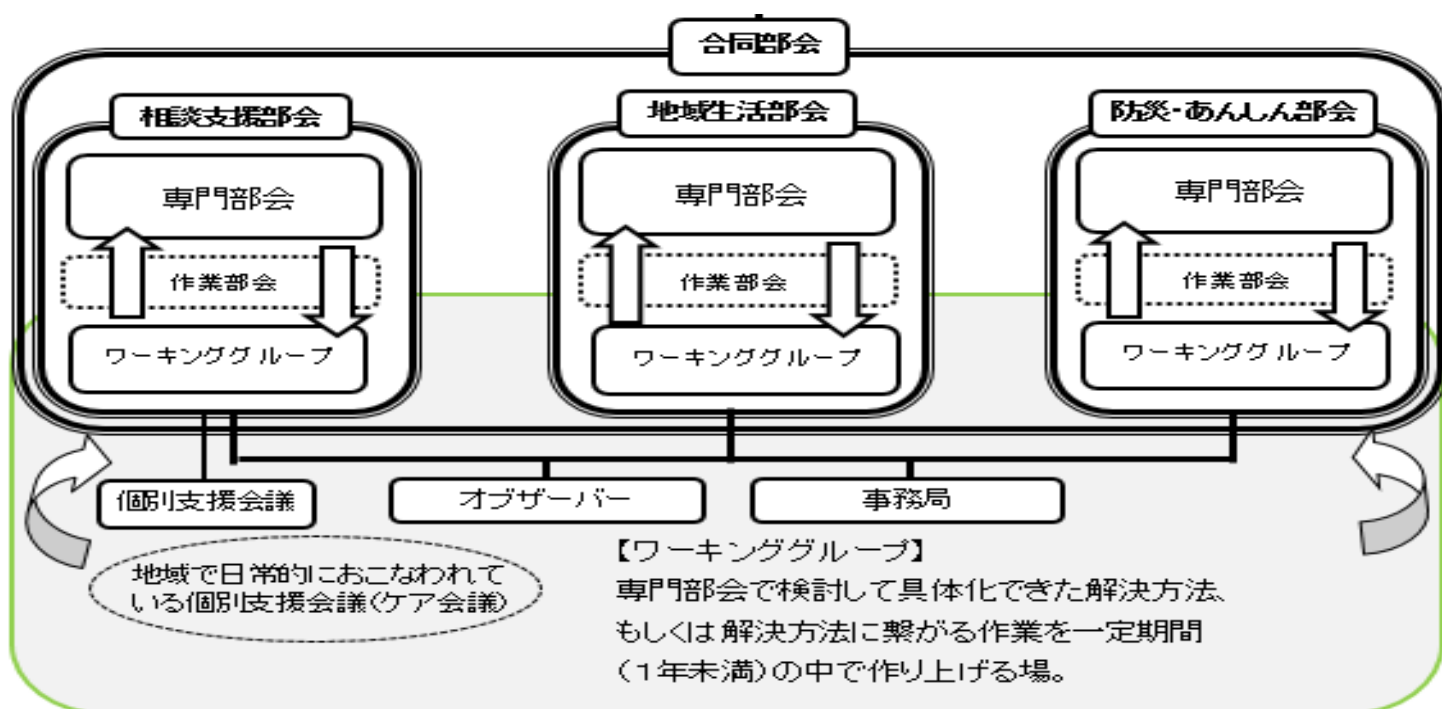
令和2年度大田区自立支援協議会報告書につきましては、書面会議を終えた後、大田区ホームページ内の自立支援協議会ページに掲載いたします。QRコードからアクセスできます。



地域生活部会のワーキンググループ

令和2年度は、委員任期の2年目にあたり、前年度以上に活発な議論が展開されるはずでした。ところが、皆さんもご存じの通り、新型コロナウイルスの拡大に伴い、部会の活動も制限せざるを得なくなりました。令和2年7月に、ようやく部会を再開させることができましたが、年度の3分の1の議論の機会が失われてしまいました。そのような状況の中、今年度は前年度より継続して取り組んできた3つのワーキンググループ(以下、「WG」という。)の活動を主体としながら、「新型コロナウイルスにおける新しい生活様式に向けた地域課題」というWGも立ち上げ、現状での地域課題の整理を行ってきました。昨年度より継続して議論を重ねてきている課題に加え、新たに「新型コロナウイルスへの対応」という大きな課題も抱え、議論の時間がいささか不足した感じもありましたが、WGの発表とそれに関する討議や新たな情報収集の時間を作りながら、部会の運営を行ってきました。報告や議論、情報交換を通して、次の課題が見えてきたこともありました。その詳細につきましては、年度末の報告書をご一読頂ければ幸いです。

大田区自立支援協議会 組織図



あなたの支援が必要です。

ヘルプカード



たすけてねカード 大田区
大田区自立支援協議会

ヘルプカード(たすけてねカード)



CHECK IT OUT!

防災・あんしん部会のワーキンググループ

アウトリーチに制限多く、部会開催も厳しかった今年度、防災・あんしん部会では、これまでの課題検討を進めるために、3つのWGでそれぞれの取り組みを進めました。

A: 調査研究

- ・福祉避難所アンケート …今年度3回目となるアンケートを、現場に即した聞き取りが行われるよう、その質問項目を精査して行いました。

- ・状態別ニーズ調査 …「障がい種別」に囚われず、それぞれの自助を考えることにも役立つツールを利用し、部会内でワークショップを行いました。

B: 自助・共助ツール

- ・ヘルプカード …折々に内容の検討を続けてきたヘルプカードについて、今回はその内容の整理に加え、区HPにおける掲載方法に関して検討しました。

- ・地域資源マップ …区全体の状態を探るための大きなマップ作りと、部会としてそれぞれの地域を知るためのまち歩きに取り組みました。

C: 権利擁護

- ・昨年度の学びから、自立支援協議会の場における「権利擁護」課題の取り上げ方について意見交換を行いました。また、東京都自立支援協議会の報告書を参考に、他地域に関して調べ、大田区での取り組みの可能性について検討しました。

- ・次期「おおた障がい施策推進プラン」に関して権利擁護の視点からも意見が出せるように検討し、部会に提案しました。

様々な立場のオブザーバー参加のある部会では、それぞれのWGの提案とそれ以外の検討課題について意見交換を行いました。それをまたWGの動き方のヒントとするよい循環が作れたと考えています。特に当事者の参加が多い部会ならではの、実感ある発見が様々な場面であり、次年度以降さらなる課題に向かって取り組んでいけると考えます。